

施設の今後のあり方

**存続
(利活用)**

- ①高い係船率・マリンスポーツの競技拠点という特徴を活かし、近隣の施設と連携して九州の海の玄関口である別府港のにぎわい空間を創出し、観光振興に寄与していく。
- ②日本を代表する温泉観光地にあり、交通アクセスや周辺環境に恵まれた県内有数のレジャー用船舶の係留施設であるとともに、別府湾は全国・九州規模の大会や近隣高校の部活動で使用されるなど県内外の競技拠点となっている。

目指すべき施設像

- ①係船率が高く、安心・安全に利用できる施設
- ②マリンスポーツの魅力を発信できる施設
- ③競技大会を通じて、競技者の技術力向上に資する施設
- ④上記②及び③の取組を近隣のホテルや観光施設等と連携して、別府市周辺の観光振興に寄与する施設

目指すべき利用者像

- ①船舶の保管等を目的として継続的に利用する県内在住者や、観光などレジャーを目的として寄港する県外在住者
- ②世代を問わずマリンスポーツに関心のある人々
- ③競技大会への参加者及び近隣の宿泊者や観光客

定量的目標 達成指標

- ①係船率の維持向上 (R1～R3平均：94%)
100%
- ②競技大会などイベントの開催の増
6回/年 (R1～R3平均：4回/年)
(R3～R5平均：6回/年)

定性的目標 達成指標

- ①利用者の拡大や満足度向上のために、ニーズに応じたサービスの提供や施設管理に取り組む。
- ②観光振興や海洋性レクリエーションに対する関心の向上のために、近隣のホテルや観光施設等との連携やイベントの開催などに取り組む。

主な課題と解決策

【課題】

- ①施設利用者の多くを高齢者が占めており、高齢化による利用者の減少が危惧される。
- ②波や潮風による設備浸食化など、施設の劣化が生じやすい。
- ③ヨット体験会など、一般向けのイベント参加者が少ない。

【解決策】

- ①マリンスポーツの場の提供・マリンイベントの開催や、九州内外から参加者が集う競技大会の誘致に取り組む。また、船舶保管の他、免許や検査の受付など複合的サービスを提供する。
- ②安全性の確保や利便性の向上のため、法定点検の実施及び安全点検の徹底はもとより、潮風による早い老朽化など、設備の状況を考慮した上での計画的な維持補修や整備を実施する。
- ③当施設のマリンスポーツを宿泊プランに取り入れるなど、近隣ホテルや他の観光施設と連携した魅力あるサービスを提供する。また、マリンスポーツに親しんでもらうため、九州UMIアカデミー等の体験学習会を若い世代に積極的に周知する。